

# 田富小だより

令和3年度  
第12号  
3月25日  
田富小学校



## 51名の巣立ち

## 回 覧

令和4年3月18日、令和3年度田富小学校卒業式が行われました。感染症の拡大に伴い、「新山梨方式」による検査も導入され、卒業式の実施も難しくなってきた状況であったので、無事、実施できたことそれだけで喜びました。当日は、前日までのほかほか陽気とは打って変わって、寒の戻りとなり、肌寒い日でしたが、健康チェック、十分な換気、式の時短、社会的距離などしっかりと感染防止対策をとって行いました。式は、「卒業証書授与」、「旅立ちの言葉（呼びかけなど）」と大きく2つに分かれます。それぞれについて振り返ってみましょう。



まず証書授与ですが、田富小の卒業生は、校長から卒業証書を授与してもらったあと、自分の席に戻る途中で親に渡す場面があります。「お母さん、お父さん、卒業証書いただいたよ。ここまで来れたのもお父さん、お母さんのお陰です。ありがとう」という気持ちを込めて子から親に証書を渡すのです。他の学校ではあまり見ない光景ですが、かなり前からの伝統になっています。ここまで一生懸命育ててきた保護者の皆様にとっても感慨深い一瞬だったのではないのでしょうか。その後、校長の式辞、来賓のご祝辞があり、子ども達の「旅立ちの言葉」へと続きます。6年

間を振り返っての思い出の呼びかけや、在校生、教職員、そして家族への感謝のことはなどで綴られています。会場に目を向けるとあふれ出す涙をハンカチで拭うお母さんたちの姿がありました。6年生の呼びかけ以外には、在校生による呼びかけがありました。呼びかけの中には合唱もあり、旋律に乗せた子ども達のことばが胸を打ちました。寒い空間で、終始マスクをしての卒業式でしたが、子ども達の学びの集大成としての儀式はすばらしい教育効果を生んで終えることができました。その後、子ども達はそれぞれの教室に入り、最後のホームルームに臨みまし



た。毎日指導してくれた担任の先生が

卒業生に向けて最後の言葉をかけ、涙ながらにそれを聞いたことでしょうか。密集を避けるため、保護者の皆さんはこの最後のホームルームに臨むことはありませんでしたが、心通い合った担任と子ども達の特別な時間でした。すべてが終わって外に出始めたころから雨がぽつぽつと降り始めました。雨に濡れながらも最後のお別れをして親子で学校を去っていく姿を見るにつけ、寂しさを



感じながらも、中学校にいても頑張ると心の中で職員一同応援をしながら、卒業式のすべてが終わりました。この会を実施するにあたり、様々な健康チェックをはじめ、卒業生の体調管理に努めていただいた保護者の皆様、陰になり卒業式を支えた5年生、そして同じく児童の体調管理に努めていただいた保護者の皆様にも心より感謝いたします。ありがとうございました。

## 令和3年度を振り返って

早いもので、令和3年度もすべての教育活動が終了しました。保護者の皆様、子どもまもり隊をはじめとする地域の皆様、ご指導いただいた教育委員会の皆様をはじめ中央市の皆様、これまで本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。皆様のおかげで、令和3年度を無事終えることができました。ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、年度の終わりに、2つの事柄について振り返ってみたいと思います。

### ①がんばった自学「やってみるじゃんノート」への取組

この学校だよりでも紹介しました自学ノート「やってみるじゃんノート」の年間集計がほぼ終わりました（3月23日現在）。全校児童のノート総提出数は、1018冊になりました。昨年度を200冊以上うまわる数量になっています。勿論、教師は「わかった、できた」を実感できる児童自らが学ぶ授業への改善に励んでいますが、子ども達一人一人の地道な努力も必要であろうと思います。3学期末に全校児童の成績表を確認する際に、担任からこんなコメントが多く書かれていたのが印象的でした。「〇〇さんは自主学習に意欲的に取り組み、その成果が表れています。」「〇〇さんはとても工夫して自主学習に取り組み、思考に幅が出てきています。」などです。コツコツと1年間取り組んだ成果が一人一人の成長にプラスにはたらいっているということがしっかりと理解できました。これまで頑張ってきた児童の皆さんに大きな拍手を送りたいです。また、来年度は、今年度よりさらに中身の濃い学習が紙面に展開されることを期待したいと思います。

### ②挨拶の向こう側にあるもの

私は、朝、子ども達が登校する際に、校内の歩道を掃除しながら挨拶をしています。ほとんどの児童が「おはようございます」と挨拶を返してくれます。中には挨拶を返してくれない児童もいますが、恥ずかしかったり、「自分に言われたんじゃない」と思っていたり、いろいろな理由があるんだろうと思っていました。でも、今年1



年挨拶をしている中で、気付いたことがあります。田富小の子ども達は挨拶しながら会釈もする子が多いということです。これは、卒業してしまった6年生に特によくみられる特徴でした。私自身、この会釈する挨拶をどう受け止めたかという、「とても嬉しい気持ちになる」というのが正直なところです。不特定多数の人間に投げかけられた形式的な「おはよう」は、個人の心にはあまり届きませんが、ある特定の人物に向けて動作を交えて発せられた挨拶は、その人物に確実に届くのだと思います。そう考えると、挨拶を返してくれなかった子ども達の気持ちがわかるような気がします。また、昼、「こんにちは」も頻りに言ってくれます。給食後の片づけ時に「ごちそうさまでした」や「〇〇がとてもおいしかったです」もよく聞くフ

レーズです。雪かきのときも5年生の子が「雪かきありがとうございました。」と声をかけてくれました。本当に嬉しかったです。「私はあなたにこういう気持ちを伝えたいんだ」という気持ちが込められているならば、きっと気持ちが届き、言われた人物も何かしらのリアクションをとってくれるのでしょう。そんな人と人の気持ちの交流が挨拶の向こう側にあるように思いました。そんな本当の意味の「挨拶」がこれからもできればいいなあと思っています。

学校だよりでは、保護者や地域の皆様に学校の様子についてお伝えしていきたいという願いでこれまでお届けしてきました。あまり上手にお伝えすることができなかつたかも知れませんが、これからも頑張ってお伝えしていきたいと考えています。1年間、お読みいただきありがとうございました。